

奈良県広陵町立真美ヶ丘中学校

(様式 4-2 : 平成 30 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称：地域におけるモビリティ・マネジメント (交通環境学習)					
2. テーマ： 交通網の整備によるコンパクトシティの提案 ー未来の広陵町にむけてー					
3. 実施教科：社会科					
4. 関連単元：結びつきからみた日本の姿、中部地方、近畿地方					
5. 実施単元数：10時間					
6. 学年	第2学年	7. クラス数	4クラス	8. 生徒数	155名
9. 実施内容 (1) 研究授業 (平成30年11月17日 [土] 丹後 七重 教諭) (2) 先進地視察 (富山県富山市) (3) その他 ①交通関連図書の購入 ②消耗品等の購入 ③印刷用トナーインクの購入					

10. 学習のながれ：

○結びつきからみた日本の姿（2時間）

世界、日本国内の交通網のめざましい発達の様子をとらえ、それによって地域の産業や人々の生活が大きく変化したことを学習した。高速交通網の高速化、広域化によって短時間での移動が可能になり、利便性が高まった一方でその交通網から外れた地域では産業の発達が課題になっていることについて考えた。

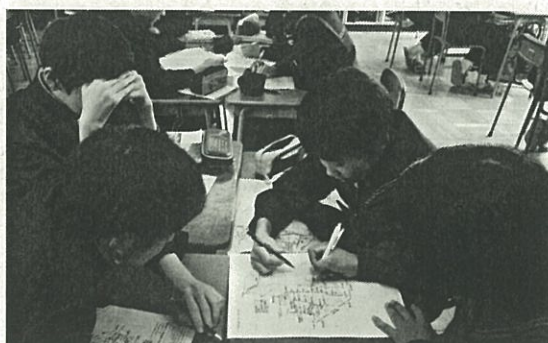
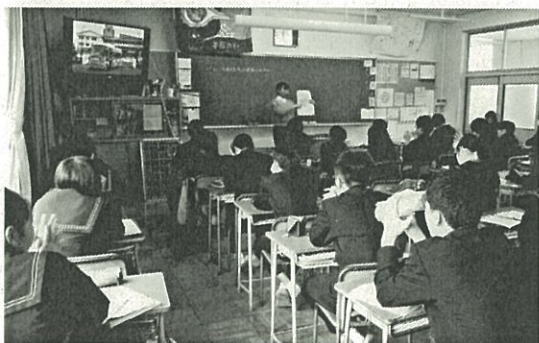
○中部地方のようす ―産業の視点で―（4時間）

中部地方の産業が交通網の整備からどのような影響を受けているのかを考察した。高速道路網によって関東や近畿と結ばれる名古屋大都市圏は工業製品出荷額第1位になっている。

北陸新幹線の開通によって、金沢市の観光業は発展を遂げる一方で、富山市は宿泊客数が減少している。その要因は、北陸新幹線の開業に伴い、特急サンダーバードが廃止され、富山駅が通過点になっていると考えさせた。LRT国内初導入の富山市のまちづくり「コンパクトシティ」についても考えさせた。

○近畿地方のようす ―歴史的背景の視点で―（4時間）

都心と郊外を結ぶ鉄道網が充実したことで、現在の関西大都市圏の姿があることを学習した。また、自分たちのまちのコミュニティバスの運行状況等を把握し、現状のままでは高齢化が進行すると「交通難民」が増加するおそれがあることを学習した。その上で富山市の「コンパクトシティ」をふまえて、コミュニティバスの現在の課題を考えさせ、地域住民の視点で運行路線を提案したのち、現在の運行路線と比較させることで、公共交通の将来のあり方について考察させた。



※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。